

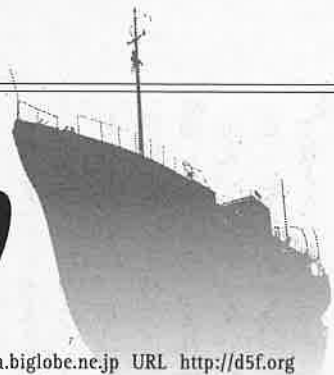
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2004.08.01  
No.311

# 福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



参加したアーティストたち、オープニング記念のトーク会場（撮影・佐川隆彦）



## コラプシング・ヒストリーズ アメリカから作家来日、記念の アーティスト・トーク開く

第五福竜丸平和協会による五〇周年記念事業・特別展の「現代アート展」が、七月一六日に開幕し、記念のアーティスト・トークの催しが、一七日午後三時よりおこなわれ、約一〇〇人が参加しました。

開会挨拶に立った平和協会の川崎昭一郎会長は、来日した六人の作家と企画プロデュースのアーロン・カーナーさんへの謝辞を述べ、さらに第五福竜丸展示館で現代アートの展覧会を開くという試みをつうじて、展示館と市民の新たな広がりを見込んでいる、と述べました。

つづいてキュレーターのアロン・カーナーさんが展覧会のコンセプトについて講演、展覧会の企画意図、開催までの経過、作家の作品について、映像を使いながら紹介しました（2面）。

来日した作家が紹介され、そのなかからシエルビー・グ

ラハムさん、ロビン・スミスさん、レベッカ・ラモスさんがそれぞれの作品を描いた想いについてコメントを寄せました。

日本から参加した作家の中ハシクシゲさんとヤノベケンジさんがトーク、それぞれの作品と第五福竜丸展示館への出展について語りました（3面）。

会には、岡本太郎記念館長の岡本敏子さん、マーシャル諸島共和国の駐日大使アマツトライン・カプアさんも参加しました。マーシャルの人々に作品に寄せられたカンパを贈るプロジェクトの構想を持つ中ハシさんは、カプアさんに協力を要請しました。

会終了後、展示館横でレセプションが開かれ、なごやかな懇談がつつきましました。

現代アート展は、展示館では八月一五日まで、浅草のギヤラリー・エフでは八月一六日まで開催されます。

現代アート展オープニング記念 アーティスト・トークより

## アレン・カーナー氏コラボリング・ヒストリーズについて語る

コラボリング・ヒストリーズは、三人のアーティストから作品の展示を依頼されたことに始まります。アメリカではまずリサカシノギャラリーで、ついでカリフォルニア大学のギャラリーで展示会を行いました。

### 歴史の場

当時私は「芸術表現と文化―カタストロフィーの表現」と題した博士論文を執筆中でした。論文を書いていたとき、私はゴジラに興味を持ちました。一九五四年の最初の映画『ゴジラ』を観たときに、第五福竜丸（とおほしき船）が最初に登場します。私は第五福竜丸とゴジラを追及する一章を書きたいと考えました。

奇遇だったのは、日本人である妻の父に、私は被曝した漁船に興味を持っている、と話したところ、それは第五福竜丸のことではないか、家の近くにその船が残っている、と教えられたのです。それが

第五福竜丸展示館との出会いです。

それより以前、歴史的な建物でもあるギャラリー・エフには関心を寄せていました。私はエフのスタッフに展示の「場」を重視したいということとを相談しました。

不思議なことに「コラボリング・ヒストリーズ」という展示は、アメリカでの同時多発テロ事件の前から始まっていたのですが、あの事件の後からこの展示のコンセプトが人々に興味を持たれ、どんどん広がっていききました。

歴史を問う作品であることに加え、展示会場が重要な意味をもつということを考えていたとき、私は哲学者ウォルター・ベンヤミンの言葉を思い出しました。「時代を超えて過去のイメージが現代において理解されなければ、その時代が消滅してしまうだろう」と。一例ですが、写真に対して、興味を持たず通り過ぎてしまえばそれで終わって

しまいますが、この写真には何の歴史があるのか考えることによって次につながっていく、ということを彼は言いたいのではないかと思えます。

### 歴史の表現

私は歴史上の惨劇を、アートを通じて表現してみるのはどうだろうか、と提起しています。自分で考えて自分で感じなければならぬのがアートです。一人ひとり違う歴史を持つており、その歴史がなくなっていく、という面に可能性を感じております。

例えばハナ・ハナさんの作品でもっとも強く訴えるのは歴史のはかなさ、メディアのイメージ（映像）を使った恐怖・戦慄のイメージ（表現）です。ハナさんが手を加えることで、ハナさんが問いかける歴史が表現されていくのだと思います。

### 三つのコンセプト

今回のコラボリング・ヒストリーズは時・空間・記憶という三つのコンセプトをもっています。「時」については、ロビン・カンデルさんは父親のナチスの拘束からの逃亡と

いう経験をイメージ化し描いています。彼女は時を越えて表現しようとしています。

「空間」についてはジェームス・フイーさん、サリー・クラークさんの作品において強調されています。二人は歴史的惨事（カタストロフィー）の「場所」を重視したテーマを表現しています。

ビン・ダンさんは「記憶」に言及した作品です。彼は今回の参加アーティストの中で唯一戦争体験者です。彼は幼い頃にベトナム戦争を体験しています。が、あまりにも幼くて覚えていない、覚えていない記憶を取り戻そうという思いを持っています。

### 歴史のエネルギ

さて、私が強調したいのは、私自身のコンセプトはもちろん重要ですが、同じくらい大切なのが会場だということです。さきほども申しましたが、第五福竜丸展示館、ギャラリー・エフという「場」は作品同様に重要です。これら三つがそろって一つ一つの展示会が開催されているといえます。

展示と場所がその内側に歴

史を宿していると同時にエネルギーを内包していることを強く感じています。

展示をご覧いただき、感じ、瞑想し、私たちは歴史をどのように築いていかななくてはならないのか、それを考えていただく架け橋となれたら光栄です。

アメリカから来日くださったのアーティストのみなさん、そして中ハシクシゲさんやノベケンジさん、本当にありがとうございます。また私の生徒たちが展示準備や通訳のサポートをしてくれました。

（アーティスト・トークは菅谷秋子さんが通訳しました。）

## 島田興生写真展・図録

ビキニ水爆被災50年を記念して展示館でおこなわれた写真展に展示されたすべての写真を収録

フォトジャーナリスト島田さんの30年のマーシャル体験が凝縮 A4版 16ページカラー 頒布価1000円（送料込み）

\*お申し込みは平和協会まで

TEL.03-3521-8494 FAX.03-3521-2900

## 日本から参加したアーティストの報告から

## ルニット・ドームについて

中ハシクシゲ

私は今年三月一日に、核実験が四三回行われたエニウエト環礁のルニット島に行きました。そこにはエニウエト島の放射能汚染表土を約一五センチ削り取り核実験でできた大きなクレーターに押し込んで、さらに厚み五〇センチくらいのコンクリートで蓋をした場所があるのです。それを「ルニット・ドーム」と呼びます。

直径一一メートル、高さ約七五メートル。そのドームの頂上を、日の出から日の入りまで約一二時間ちょっと、連続的に七秒に一枚ずつ、ドームのコンクリートの表面の写真を撮り続けたわけです。撮影は、カメラのシャッタースピード、露出をテープで貼り付けて固定し、レンズも固定して、自分の体で焦点を合わせるようにしながら撮りました。実物サイズのルニット・ドームの表面が写るとい

夜明けには、やや露出不足になります。やがてどんどん露出オーバーになって明るくなる。昼近くになりますと、ファインダーのなかにボクの影やカメラの影が入ってきます。それがしばらくすると、夕方には露出不足になってきて最後はまた暗い画面で終わるといわけです。

私はこれを「On the Day Project」と呼んでいます。つまり「その日」を撮るとい作品です。歴史的な場所の、「その日」に「その場所」に行って撮り続けるという仕事をこの作品も含めて七回行って

このプロジェクトにはもうひとつの側面があります。それは私が作るのではなくて参加した人々、つまり来館者やボランティアの方に作ってもらうというものです。私が写真を貼りあわせることは簡単なことですが、そうではなくてこのプロジェクトに賛同してくださる方とともに制作し完成されるのです。私は歴史について、本で読

む歴史というのは、確かに知識は増えていきますが、それだけではない歴史のとらえ方ができるのではないかと、思っているのです。

たとえば私はルニット島で写真を撮ってききましたが、いつも知識は増えていけません。本で読む以上の知識は増えていませんが、行く前と後とでは全く異なっている自分に気づくのです。こうした私の体験のように、写真を貼ることによって皆さんも経験する、何かをイマジネーションする、写真のバズルゲームをしている中からルニット・ドームの表面から中に入っている核物質のことを想像できるかもしれない。またボランティア同士でこうしたことについての話し合いができる機会がつかれれば望外の幸せです。

## 森の映画館について

ヤノベケンジ

この小屋は子どものための映画館です。映画館の前には客の呼び寄せ人形のように、黄色い服を着た「トラヤンロボット」が踊っています。

この「トラヤン人形」はたまに踊るんですね。なぜ踊る

かというのと、胸のあたりに、放射線を感じするセンサーがついており、自然放射線がこの建物も突き抜けてトラヤンの胸を通過するたびに歌って踊ります。

映画は一二分間。最初はすごくおもしろく、途中から怖くなってきた最後には泣いてしまいます。観ていただければいろいろなナゾがとけますね。なぜトラヤンが踊ったり、樽の向こうで首を出したり机の下に隠れているのか、なぜ木の小屋なのに内側が鉄なのか、なぜおやつがあるのか。

この展覧会に出演を依頼された昨夏、正直いつてはくは躊躇しました。この第五福竜丸の被災という歴史的事件、ボクにしては大きすぎるストーリーの横にボクの作品が置かれてもなお何かメッセージを寄せられるだけの強度を持つのかと、悩みながら作りました。

昨夏というのは、大阪の万博会場、まさに岡本太郎さんの太陽の塔の横で展覧会をしていったんです。そのとき偶然、太陽の塔を作ったのとはほぼ同時期に描かれた、壁画『明日の神話』がメキシコで見え

れた。この壁画は深刻な問題をひじょうにダイナミックなエネルギーのある表現をしており、アートの役割として世の中に訴えかける前向きなパワーを持っていた。そう考えると、第五福竜丸展示館に自分の作品を出してもいいんじゃないか、それが挑戦なんじゃないかと思っただけです。

\*

僕には、一歳と四歳の子どもがいるんですが、彼らがちゃんと生きていけるためにこの作品を作っただけなんです。それがひとつの大きな動機だった。なにか社会的なとか大義みたいなものでなく、とてもささやかなものを守ろうとする思いを伝えることによつて広がっていくんじゃないか、そういう姿勢で作っています。しかも関西的なお笑いの精神を忘れずに、深刻にならず明るい世の中になろうという思いで作っているつもりです。

戦争体験も社会的事件にも直面していなかった世代のボクが作品を作れるんだということが、アートの理解、第五福竜丸の歴史の理解にひきつがれていくということを感じています。

## 通算来館者 400万人を突破！



第五福竜丸展示館は、6月27日、開館以来の来館者が400万人を超えました。あいにくの曇空の日曜日でしたが、午後2時に来館した3家族が開館以来400万人目となりました。

400万人目となったのは、川崎市の大塚さん母子、江東区の小林さんと高瀬さんの家族。これを記念して、平和協会の川崎昭一郎会長から、未来を担う子どもたちへの希望とお祝いの言葉が述べられ、記念証と記念品が贈られ、ボランティアの会で手作りした折鶴のレイがかけられました。

後日、大塚諒助君（5歳）のお母さんから展示館あてにメールが寄せられました。

「家に帰ると早速お父さんに『今日でっかい船見てきたの。ごみと一緒に捨てられていたんだよ。』と報告し、いただいたキーホルダーを幼稚園バッグにつけて、登園するなり先生に見せていました。先生から『第五福竜丸なんてすごい見てきたのね〜』と言われ、うれしそうでした。100分の1でも何か心に残ってくれていると嬉しいし、もう少し大きくなって、ちょっとわかるようになったらまた展示館を訪りたい」と記されていました。

展示館は、1967年6月開館、79年1月に来館者が10万人をこえ、89年2月に100万人、97年5月に300万人をこえ、被災50周年の今年400万人に達しました。

## 焼津市で第五福竜丸事件 の特別展

ビキニ水爆被災50年記念行事として第五福竜丸の母港焼津市の歴史民俗資料館で「第五福竜丸—平和の願い」と題した特別展示会が開催されました。

会期は、6月30日より8月2日で、展示は、事件当時の市役所の調査書や報告書など緊迫した様子を伝える資料と、久保山愛吉さんと家族との往復書簡や愛吉さんの死去にともない寄せられた弔文など、貴重な資料が公開されました。

第五福竜丸平和協会協会は、この企画に協力し、所蔵資料から当直、航海、漁労などの日誌類、死の灰、日めくりカレンダーなどを提供しました。

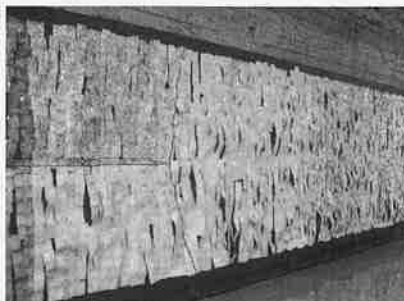
### あなたもアートの参加者に！

On 1st March @Runit Dome  
プロジェクトへの参加、マーシャルの人々への寄附を呼びかけ！

現代美術家の中ハシクシゲさんが、現代アート展に出展した作品の写真5000枚を切り分け、希望者にカンパでお分けし、マーシャル諸島の人々に役立てたいと寄附を募っています。

展示終了後に貼り合わされた写真はずし、中ハシさんの記念サイン入りの台紙とともに郵送されます。

希望者は、平和協会までFAXかメールで申し込んでください。写真は、1枚あたりサービスサイズ版で1000円のカンパをおねがひしています。カンパは、写真到着後に同封の郵便振替用紙にて振り込んでいただきます。



平和のための博物館・市民ネットワーク第4回交流会、夢の島公園施設で開催  
—11月27日、28日—

各地で平和のための博物館・資料館（公立、民間）の運営や活動、平和博物館作りのとりくみ、研究者など個人で構成し交流を重ねている「平和のための博物館・市民ネットワーク」の第4回全国交流会が、夢の島公園に新しくオープンした施設、東京スポーツ文化館にておこなわれます。

交流会開催には、被災50年記念プロジェクトをすすめる第五福竜丸平和協会と戦災資料センターが準備等に協力し、また両施設の見学会も組まれています。

日時は、11月27日、28日の2日間、主な日程は、11月27日（土）10時より12時、戦災資料センターの見学、14時より17時、スポーツ文化館で交流会（参加者からの発表・報告と質疑討論）、17時より18時第五福竜丸展示館見学、18時より20時、懇親会。

11月28日（日）9時より12時スポーツ文化館にて交流会。14時より16時戦災資料センターの見学のプログラムです。

\*報告希望と参加については、立命館大学国際平和ミュージアムの山辺学芸員（電話075-465-8151、FAX075-465-7899）までお申込みください。



### ボランティアメール♪

現代アート展では新しい出会いがいっぱい、カーナーさんや中ハシクシゲさんの教え子などが連日参加。日本語と英語がとびかい、来館者の方からボランティアへの申し出もあり、たのしい限りです。